

2024 年度地質標本館における博物館実習

中村 由美¹・森田 澄人^{1,2}・兼子 尚知¹・川邊 禎久¹

1. はじめに

地質標本館では、1993 年度以降、例年博物館実習を実施しています(中村ほか, 2021)。2024 年度は、8 月 19 日(月)～23 日(金)及び 8 月 26 日(月)～30 日(金)の 10 日間、7 大学から実習生 11 名を受け入れ、実習を行いました。昨年度までの 4 年間は、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の影響により日程を短縮し 5 日間としましたが(中村ほか, 2022)、本年度より以前と同様の 10 日間に戻して行いました。また、同様の理由で見合わせていた来館者と対面で行うイベントを復活させカリキュラムに組み込みました。本稿では、実習の様子を紹介いたします。

2. 実習の内容

実習 1 日目 (8 月 19 日月曜日)：オリエンテーション，館内見学，標本清掃

標本清掃：休館日を利用し、3 班に分かれて第 4 展示室の展示標本清掃を行いました。本年度は化石標本の清掃です。標本の取り扱いに緊張しながらの作業でしたが、実習生同士のチームワークが良くスムーズに進みました(写真



写真1 標本清掃の様子。

1)。また、清掃中は間近で標本観察ができるため、実物の標本を手にとって観察できる喜びをかみしめている実習生も多くいました。

実習 2 日目 (8 月 20 日火曜日)：標本清掃，収蔵庫見学，地質図ライブラリー見学，地質試料調製グループ見学，個人課題

収蔵庫見学：岩石・鉱物・化石の収蔵庫をそれぞれ見学しました。岩石収蔵庫では、岩石試料だけでなく地質図や関連した書籍等について説明を受けました(写真 2)。多くの貴重な資料から、研究所の歴史を垣間見る時間となったようです。

地質試料調製グループ見学：岩石薄片の作製方法や道具・設備類について説明を受けた後、3 班に分かれて、仕上げ工程の研磨体験を行いました。今回は、初心者でも取り扱いやすい花崗岩の薄片です。作製経験のある実習生もいましたが、丁寧さが求められるため緊張しながら作業をしていました(写真 3)。各班ほとんど差はなく上々の出来で、完成後の薄片観察では安堵の声が聞かれました(写真 4)。実際の現場での体験は貴重な機会になったようです。

個人課題作成：個人課題は、館内の展示物を一つ選びその展示物の解説を作成する「一点解説」です。実習最終日に

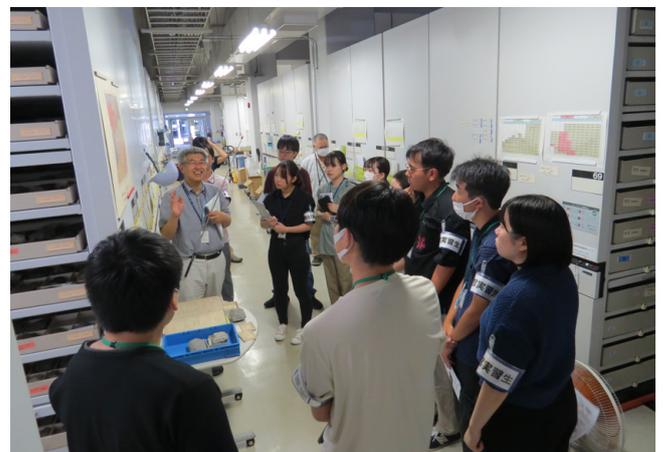


写真2 収蔵庫見学。

1 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

2 産総研 エネルギー・環境領域再生可能エネルギー研究センター

キーワード：地質標本館，博物館実習，学芸員，展示解説，展示標本清掃，岩石薄片



写真3 岩石薄片作製体験.



写真5 イベント練習(石膏模型).

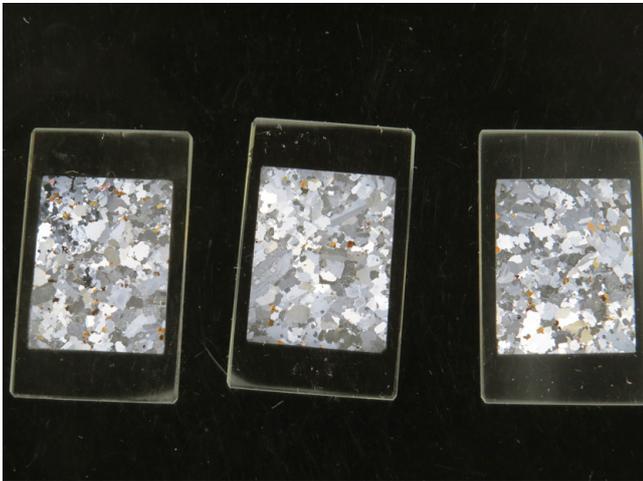


写真4 岩石薄片作製体験の完成品.



写真6 イベント練習(クレイモデル).

は作成した解説の発表があります。実習生の専攻分野に関わらず、それぞれテーマ決めには悩んでいる様子でした。

実習3日目(8月21日水曜日): イベント練習

イベント練習: 新型コロナ以降には休止していた来館者との対面イベントを、本年度の実習から再開することにしました。今回実施したのは、二種類の化石レプリカ作りです。一つは、ビニルシリコン製の型に石膏を流し込み作製する方法(以下、石膏模型)です。もう一つは、化石の雌型に直接樹脂粘土を押し付けて作製する方法(以下、クレイモデル)です。どちらも化石はアンモナイトにしました。

石膏模型の練習では、固まった石膏をビニルシリコン製の型から取り出す工程で苦戦する実習生が多くいました。ビニルシリコン製の型は、無理に引っ張ってしまうと亀裂が入り修復が必要となります。そのため、破損しないよう細心の注意を払いながら作業しました。その後、実習生同

士や職員をお客様に見立てて実践練習を行いました(写真5, 6)。はじめは手順を確認しながらでしたが、何回か練習するうちに工夫したり雑談も交えたりして対応できるようになっていました。

実習4日目(8月22日木曜日): イベント練習, 打ち合わせ, 準備

打ち合わせ: イベントの打ち合わせでは、実習生のほか当館の職員も含めて行いました。各人の持ち場のみならず全体の流れを把握することは、スムーズな運営のために必要不可欠です。日頃から館のイベント運営をしている職員とのやりとりを見て、実際の現場の雰囲気を感じ取ってくれたようです。

実習5日目(8月23日金曜日): イベント実施

イベントは、二種類の化石レプリカ作りを実施しました



写真7 イベントの様子(石膏模型)。



写真8 イベントの様子(クレイモデル)。

(兼子ほか, 2025)。

石膏模型：予約制とし各回定員 10 名で 1 日 5 回の実施としました。実習生の担当は作成の指導者です。実習生の多くが参加者とのコミュニケーションを懸念していましたが、練習の甲斐あって色々とお話できたようでした(写真7)。

クレイモデル：整理券制で午前・午後の各 70 名としました。実習生は作成の指導を担当します。午前は来館者の出足がゆるやかで、途中からは随時受付となりました。緊張している実習生が多くいましたが、何回か対応するうちにスムーズに行えるようになっていました(写真8)。午後は時間帯によって混雑し、特に終了時間間際に集中しました。石膏模型の参加者が、終了後に立ち寄って下さったことで混みあったようです。そのため、午前に余った分のほか、予備分の資材を使用しての対応となりました。

どちらのイベントも目立ったトラブル等はなく無事終え

ることができました。

実習 6 日目 (8 月 26 日月曜日)：イベント反省会，標本清掃

イベント反省会：週が明け、イベントの反省会を行いました。石膏模型では、参加者の年齢や家族構成に応じた対応が難しかった等の感想が挙げられました。一方で参加者とのコミュニケーションが上手くとれたといった声も聞かれました。クレイモデルも同様に、予想していた客層と違ったため対応に戸惑った等の声がありました。その他、実習生同士で協力してできたこと等が良かった点として挙げられました。練習時とは異なり実際の対応では様々なケースがあり大変だったようですが、印象に残る経験になったようです。

実習 7 日目 (8 月 27 日火曜日)：化石スケッチ，砂の観察，粒度表作り，個人課題

化石スケッチ：研究では、対象物をよく観察し特徴をとらえて記録に残す作業があります。その一つが化石スケッチです。美術のデッサンとは異なり、スケッチ特有のルールのもと描きます。今回は、体験イベント(クレイモデル)で使用したアンモナイトを題材に描きました。陰影や表現方法に苦戦する実習生が多く、スケッチの難しさや奥深さを感じたようです(写真9)。

実習 8 日目 (8 月 28 日水曜日)：グループワーク，個人課題

グループワーク：3 班に分かれワークシート作りを行いました。ワークシートとは、来館者が見学する際の補助教材として館が提供するサービスの一つです。来館者に博物



写真9 化石スケッチの様子。



写真10 グループワークの様子。



写真11 一点解説発表の様子1。

館の展示をより深く理解してもらうことや楽しんでもらうことを目的としています。テーマは「地質標本館の見どころ」とし、対象者は班毎に設定してもらうこととしました。役割分担をしてから始める班や皆で同時に作成にかかる班等、それぞれに進めていました(写真10)。残り時間がわずかになると、各班共に多少の焦りが出てきたようでしたが、なんとか時間内に完成となりました。

実習9日目(8月29日木曜日):グループワーク,個人課題,発表準備

グループワーク：前日に完成した各班のワークシートを館内で実際に取り組み、意見交換をしました。

1班は、テーマ「マニアックな見どころ」として中学生～大人が対象です。設問は、クイズ形式と気付いた点を書かせる記入形式です。解答者自身に考えさせる問題が多く、じっくりと学べる点が良いという意見がありました。一方で問題の難易度が高いため、ヒントの追加やもう少し一般目線にしても良いのではといった意見が出されました。

2班は、テーマ「地質技術に注目コース」として小学校高学年～大人が対象です。設問はクイズ形式です。良い点として、設問の難易度が対象年齢とよく合っていることや問題文が読みやすいといったことが挙げられました。クイズ形式の場合、はずれの選択肢を入れますが、その選択肢も学術的に正しいものを入れるように指摘がありました。

3班は、テーマ「手で歩く!地質標本館」として高校生以上が対象です。設問は、1班と同様にクイズ形式と記入形式です。テーマ通り、展示物を操作したり触ったりして解く問題がバリエーション豊富で面白いといった意見が出されました。その中で色に関する問題は、個人の感性や色覚



写真12 一点解説発表の様子2。

に違いがあるためよく考えたほうが良いといった意見が出されました。

各チームの内容やデザイン等で改善の必要がある部分もありましたが、職員が思いつかないような視点も多く、良いワークシートとなりました。

実習10日目(8月30日金曜日):一点解説発表

発表：午前と午後に分かれ、各人5分として一点解説の発表を行いました。天候により野外展示を選択した実習生は館内に変更をしたり、見づらい場所にある展示物を発表しやすい場所へ予め移動をしたりと例年にはないような対応もありました。

また補助資料についても、ラミネートした印刷物・タブレット端末・動画等、バリエーションが豊富でそれぞれ工夫した発表となりました(写真11, 12)。職員からの細か

な指摘はありましたが、各人ともよくまとめられていました。

3. おわりに

新型コロナ以降、実習日程を 10 日間に戻しての実習でしたが、日程が長くなったことで、一つのカリキュラムをじっくりと実施できることや実習生同士の交流を十分にとることができました。特にイベント運営やグループワークでは、お互いに協力し学びあえたといった感想が寄せられ実習生の印象に残ったようです。今回の経験が学芸員資格の取得のみならず、今後の活動に役立つことがあれば幸いです。

謝辞：博物館実習においては、地質標本館委託保守受付の皆様、地質情報基盤センター地質標本館室地質試料調製グループ・運営グループの皆様、同センターアーカイブ室の皆様、地質調査総合センター連携推進室の利光誠一氏にご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

文 献

- 兼子尚知・利光誠一・森田澄人・川邊禎久・常木俊宏・福田和幸・瀬口寛樹・中村由美・朝川暢子・清水裕子（2025）地質標本館イベント「自分で作ろう！！化石レプリカ」開催報告. GSJ 地質ニュース, 14, 116-117.
- 中村由美・森田澄人・兼子尚知・利光誠一（2021）2020 年度地質標本館における博物館実習. GSJ 地質ニュース, 10, 56-59.
- 中村由美・森田澄人・兼子尚知・利光誠一（2022）2021 年度地質標本館における博物館実習. GSJ 地質ニュース, 11, 252-255.

NAKAMURA Yumi, MORITA Sumito, KANEKO Naotomo and KAWANABE Yoshihisa (2025) Curatorial practice at the Geological Museum, GSJ, AIST in 2024FY.

（受付：2024 年 11 月 26 日）